町は生きている
広報くろさき
1986 7
No.274

21世紀はどんな町？

特集／第3次総合計画（5～11ページ）

まだ幼いかな、立仏小学校五年の高木さおりさん、中川真弓さん、青木ユリさん、志田景子さん、小林洋子さん（右から）と六年の松岡広明君――六月十四日、わたしたちはお母さんや役場の人たちと河川敷の公園に花を植えました。（関連二～三ページ）ここで花火やキャンプやラジコンをして遊んでいます。花は家で育てて大きくなったら持ってきて植えようと思います。もっと大きな公園があったり、田んぼや畑がずっとあればいいなあと思います。町にビルができるのは遊ぶところが減るから反対です。二十一世紀になったら大人にならなくてはならないので、いやです。

まだまだ若い、二十二歳の渡辺あゆみさん（保母、寺地団地）――二十一世紀ですが、三十八歳ですね。イイ女になっているかしら。結婚したら黒埼にいるかどうかわかりませんが、この町は好きです。これといった特色はないけど、みんなが楽しく暮らせる町だと思います。将来、ふるさとになるかもしれない町ですから、あまり都会化されないでほしい。聞かれたときに誇りを持って「黒埼出身です」と言える町になってほしいなあ。

これから〝青春〟が似合う黒埼中生徒会長の渡辺俊典君（15歳、木場）――個性のある生き方をしたいです。陸上をやっていますが、これは続けようと思います。21世紀というとあと15年、ちょうど今の倍生きるわけだから、高校、大学、就職と僕も変わるでしょうね。黒埼中学校は生徒が増えてきて狭くなっています。そのころは第2中学校ができているかもしれません。そしたら2つとも母校かな。

頑張る若手後継者の松井弘光さん（三十一歳、新町、農機具店経営）――後を継いだからには店を大きくしたいのですが、農家の経営と一緒ですからこれからも商売は厳しいでしょう。農業は大規模化、多角化が進むと思います。店側も売るだけでなく営農指導や農業知識が必要です。この仕事は農家の人情に助けられます。人情だけは変わらず温かい町であってほしい。

四十代が女の花という白井綾子さん（興野三区）は家庭奉仕員（ヘルパー）を十年続けています――お世話をしている人が一日でも長生きできればと祈ります。健康の大切さを痛感します。健康で根性があれば、どんな時代でも生き抜けます。もう一つは思いやり。未来を担う子供たちにはそういう育児や教育が何より大切ではないかしら。町はあか抜けてきたけれど、今の子供と同じで今一つピリッとしたものが足らない気がします。

3年前に札幌から越してきた蛯原（えびはら）守さん（60歳、焼鮒団地）はお孫さん（潤一郎ちゃん・3歳）と一緒に散歩中――21世紀までは孫と一緒に生きたいですね。黒埼町はそんなに変わらないのでは。札幌と違って公園や広場が少ないし、道路が狭いですね。小さい町だから仕方がないところもあるのでしょうが、この町は計画性が感じられません。孫の生まれ育つ町ですから、いい町になってほしいと願っています。